

〈対象輸送分野の検討〉

対象輸送分野は『加工食品』とする。

※本省の調査において、30分以上の荷待ち時間が生じた件数が最も多い輸送品目であるという調査結果が出ている。

〈実施内容〉（詳細は、【資料2-2】 【資料2-3】）

① 調査事業の対象集団

・ 発荷主(道内の問屋)、着荷主(ラルズ/東光ストア)、運送事業者（エア・ウォーター物流(株)）

② 実施内容

・ 三菱食品のラルズ/東光ストア向け物流センターの統合による配送システムの大規模な転換を契機として、転換前後の「荷待時間」「荷役時間」「従事人数」等を比較調査し、その効果を検証する。

・ 課題の洗い出しや更なる改善に向けての検討、提案

・ 検証結果を要因別に分析し、効果的な取り組みについて横展開を図る。

③ 課題解決に向けた目標及び指標の策定（KPIの設定）

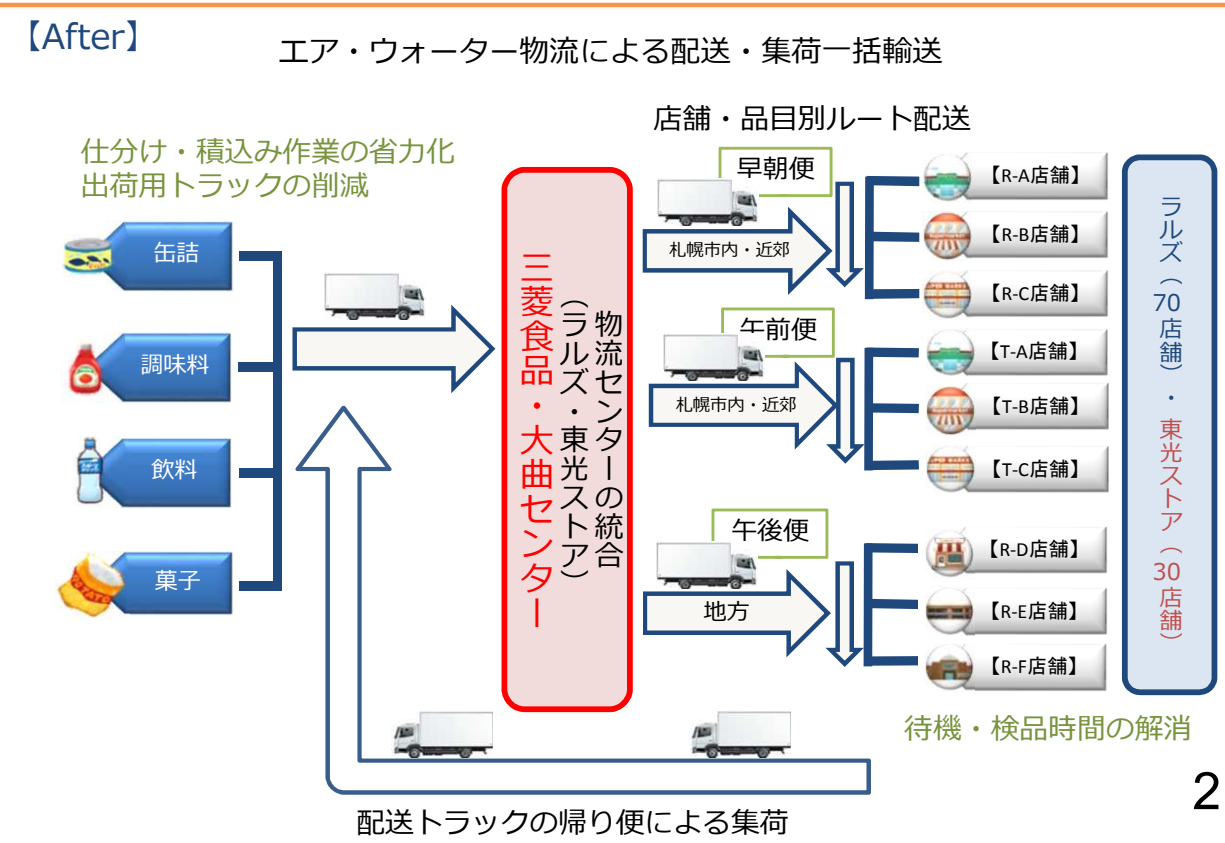
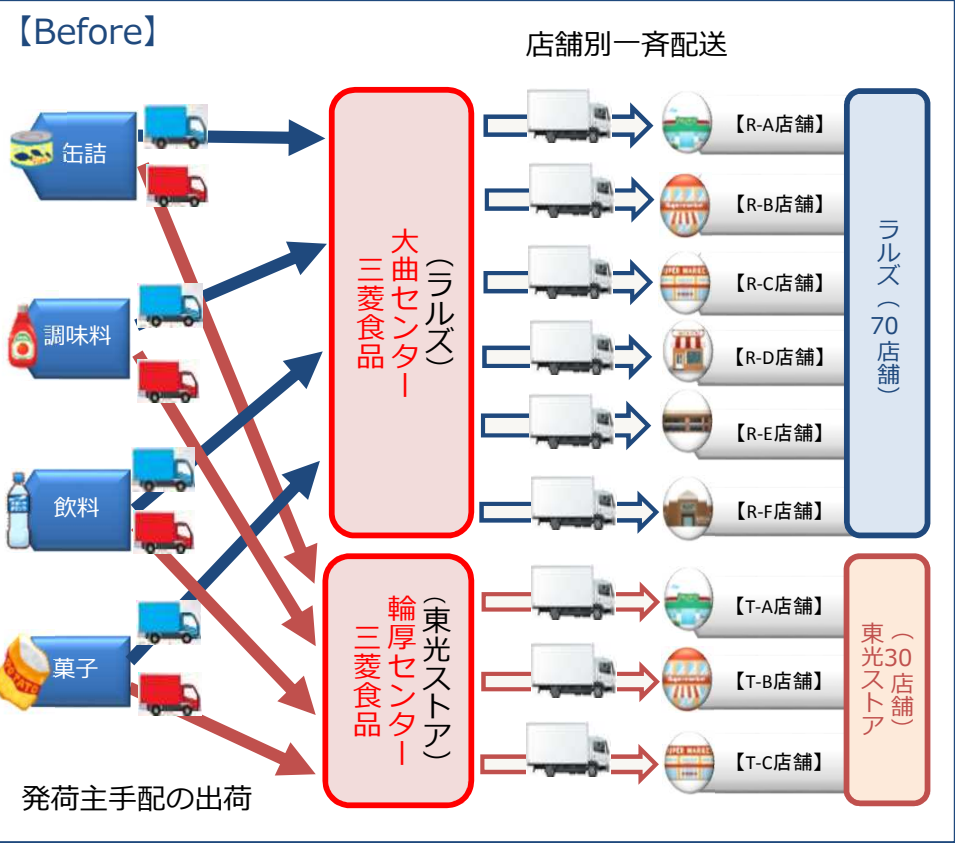
・ 想定されるKPIの項目・・・荷役時間、作業時間、荷待ち時間、輸送用機械の積載効率

④ 実施時期

・ 9～10月（予定）

＜取組のポイント＞

1. 着荷主（スーパーマーケットチェーン）の物流センターの統合、作業自動化（仕分け作業等）、効率化（マテハン導入）を契機に、配送の仕組みを全面的に見直し。
2. 具体的には、
 - 1) 作業自動化に伴い着地（スーパー店頭）での検品作業を廃止し、店頭での置配を実現。これにより、無駄な車両待機時間や検品立会時間が解消し、配送に充てられる時間が増加。
 - 2) 納品時間を見直し、全店舗一律で早朝時間の納品から、近郊店舗は午前・午後の2回納品、地方店舗は午後納品に変更。これにより、運転手の深夜早朝出勤が解消されるとともに、配送回数が増加。
 - 3) 配送時間・配送回数が増えることを受け、配送の仕組みを見直し、① 配送ルートについて、1日1回1店舗の配送から、近郊は1日2回複数店舗、地方は1日1回複数店舗に変更、② 受荷主（スーパーマーケットチェーン）手配の荷物に加え、発荷主（メーカー）手配の配送も一括して引き受け。これにより、車両の運用が効率化（68両から26両に削減見込み）
3. 以上の取組により、運転手の労働条件を改善（早朝出勤の解消、待機時間等の削減）するとともに、運転手・車両の数の省力化・生産性の向上を実現。
4. 発荷主（メーカー）も、店舗別小口出荷を品目別総量出荷に改めることにより、仕分け・積み込み作業の省力化及び出荷トラックの手配・確保業務の削減というメリットあり。



サプライチェーン 各プレイヤーの課題・対策・改善成果

課題

【運送事業者】※赤字はドライバーにかかる負担

A 納品時間の制限(6時~9時)があるなか、店舗別一斉配送のための車両・人員の確保(ラルズ 70店舗 55両、東光ストア 30店舗 13両)

B 一斉配送のため地方店舗への早朝出発

C 配送先の納品時間が限定されるため待機時間が発生(他社の納品と競合)

D 配送先での検品作業

E ラルズの配送業務は4時間程度であり、配送後の空き時間を埋める業務が不安定(コンビニ配送が多いが、今後も継続できるか不透明、ドライバーの雇用が不安定)

F 業務量が不安定なため配車業務が負担

G 早朝出発に伴う運行管理者の負担

【ラルズ】

A ラルズ、東光ストア個別配送による物流費の負担

B 納品車両の集中(納品時間が6時~9時の1回のみ)

C 検品作業

D メーカー別納品のためバックヤードでの仕分け作業

E 誤配送の多発

【三菱食品】

A 荷役作業が煩雑、長時間(納品された商品の検品、手作業で配送先店舗別への仕分け)

B 手作業による誤配送の発生

C 早朝出発便のための深夜作業

【メーカー・問屋】

A 短いリードタイム(11時受注、夕方まで納品)

B 店舗別納品のため膨大な仕分け作業が発生

C ラルズ、東光ストア双方の物流センターへの納品のためのトラック確保、低い積載効率

D 自社配送のための車両管理

対策

【運送事業者】

- ・配送・集荷一括輸送(配送トラックの帰り便による集荷)
- ・配送・集荷ルートの再編

【ラルズ】

- ・物流センターの統合
- ・店舗ごとの納品時間を弾力化(早朝、午前、午後の3設定)
- ・リードタイムの拡大(10時間→最大29時間)

【三菱食品】

- ・物流センターの統合
- ・マテハンの導入による品目別総量受入れ、自動仕分け
- ・ドーリー、オリコンによる店舗・品目別配送

【メーカー・問屋】

- ・品目別総量出荷によるロットの拡大、パレット化

改善成果

【運送事業者】※青字はドライバーの負担軽減

- a 配送車両の削減(68両 → 26両)(他業務の必要なし)
- b 納品時間の分散による早朝出発便の廃止、待機時間の削減
- c 配送先での検品作業の廃止による作業時間の短縮(1時間→0.5時間)
- d 検品の廃止により早朝便の店頭置き配が可能(他社との競合がなくなり、待機時間を削減)
- e 配送・集荷一括輸送による業務量の安定化
- f 業務量の安定化による配車業務の負担軽減
- g 早朝出発便の廃止による運行管理者の負担軽減

【ラルズ】

- a ラルズ、東光ストア一元配送による物流費の削減
- b 納品時間の弾力化による混雑緩和
- c,d ドーリー、オリコンによる品目別納品で検品の廃止、バックヤード作業の省力化
- e 自動仕分けによる誤配送の削減

【三菱食品】

- a マテハン導入による作業時間の短縮、省力化
- b 自動仕分けによる検品廃止、誤配送の防止
- c 早朝出発便の廃止による深夜作業の削減

【メーカー・問屋】

- a リードタイム拡大による余裕を持った出荷作業
- b 品目別総量出荷による店舗別仕分け作業の削減
- b パレット化による積み込み作業の省力化
- c 物流センター統合による出荷の一元化、積載効率の向上
- d 出荷用トラックの手配、管理が不要